

2023年度紅梅会役員・委員

会長	(66)	茶園 美香	編集委員	(学14)	長谷川 真由実	研修委員	(学17)	吉崎 爽平
副会長	(87)	添田 英津子		(学17)	阿戸 和香奈		(学17)	大久保 和夏
書記	(学1)	田村 紀子	準備委員	(学17)	高鍋 佳奈美	役員推薦	(短7)	◎水野 美也子
	(学8)	植松 未奈		(学18)	吉田 碧		(学12)	三浦 桃子
会計	(学10)	藤原 聡子	準備委員	(84)	◎江河 都美	ホームページ	(学13)	入澤 佳奈
	(短12)	関本 久美子		(短9)	新藤 香織		(学17)	◎島田 宗太郎
会計監査	(学4)	晝間 優里	準備委員	(短9)	赤木 紀子	ホームページ	(短1)	藤井 純子
	(70)	立川 臣子		(学5)	星野 真理子		(短3)	神谷 桂
編集委員	(短10)	志間 佐和	研修委員	(学12)	大和田 紗代	ホームページ	(学5)	佐久間 有紀
	(学15)	◎池田 多喜子		(学4)	◎小柳 淳		(学12)	野中 菜摘
編集委員	(学3)	橋本 敬子	研修委員	(学5)	天野 秀基	ホームページ	(学12)	阿部 祐里
	(学4)	山崎 系子		(学13)	千々布 珠総		(学17)	渡辺 穂香

() : 卒業生 ◎ : 委員長



第114号

紅梅会事務局よりお知らせ

1.住所・氏名等の変更は、次のいずれかの方法で必ず事務局までご一報ください。

- ①メール・郵送・FAX
- ②QRコードの登録変更フォーム

コチラから→



2.紅梅会からのお知らせは、随時ホームページにて更新しております。

ぜひ、ご覧ください。

コチラから→



3.会費の納入にインターネットバンキングをご利用いただけるようになりました。口座番号はホームページをご確認ください。

事務局在室時間: 木曜日 10時~16時

(状況により在宅勤務および出勤日を変更することがあります)

長期休み:夏休み8月、年末年始2週間程度

メールアドレス:koubaikai.1934@gmail.com

直通電話・FAX: 03-3341-8116 短2回生 船江 裕美

ご寄付は随時受け付けております。引き続き、一層のご支援をお願いいたします。

「特選塾員推薦」受付中

2001年4月から今までに263名の方が紅梅会推薦により特選塾員となりました。推薦をご希望の方は下記の項目を明記して、紅梅会事務局に郵送・メールまたはファックスでお送りください。なお不明なことは紅梅会事務局にお問い合わせください。

- 氏名・ふりがな・生年月日
- 回生または卒業年月
- 現住所・電話番号
- メールアドレス
- 学歴(高校以降)
- 職歴およびこれまでの活動(ボランティアを含む社会的活動などを具体的に書いてください)
- 特選塾員推薦に申請した理由および、特選塾員になった時の抱負

2023年12月31日現在

訃報

28回生 熊谷 美喜子(旧姓柴田)	不明	47回生 岡田 廣子(旧姓平井)	2022年5月20日
32回生 鈴木 喜久子(旧姓長田)	2022年3月14日	51回生 志賀 恵美子(旧姓塩見)	2022年6月25日
34回生 平山 慶子(旧姓小杉)	2022年10月30日	58回生 青野 英子(旧姓斉藤)	2023年5月2日
35回生 芦澤 淑子(旧姓豊島)	2023年3月27日	70回生 高野 松美(旧姓小林)	2022年8月22日
35回生 佐藤 房子(旧姓長谷川)	2022年11月30日	78回生 川崎 悦子(旧姓清水)	2023年3月1日
37回生 井上 千代子(旧姓鳥居)	2021年11月1日	高看7回生 西澤 なおみ(旧姓米)	2022年8月28日
44回生 後手 田津子(旧姓伊東)	2023年3月21日	高看8回生 木村 理恵子	2023年6月30日

編集後記

皆様の多大なるお力添えをいただき、第114号会報を発行することができました。心より感謝しています。今年度は新型コロナウイルスが5類感染症へと移行し、様々な場所での皆様のご活躍、交流の場が再開されたことを知り、勇気づけられました。今後とも皆様のご健康をお祈り申し上げます。

編集委員長 学15期生 池田 多喜子

会長あいさつ

66回生 茶園 美香



令和6年1月1日に発生した能登半島地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。日常生活がままならない状況に加え、厳しい寒さの時期の震災、懸命に復旧・復興に取り組まれているというニュースを聞くたびに胸が痛みます。会報が届く頃には、徐々に復旧・復興が進み、皆様がお元気で過ごされていることを願って紅梅会HPでは、被災された多田(岡田)弥生さん(短大4回生)が記録された被災当日からの経験を公開しています。尚、慶應義塾においても震災に関連した寄付活動が行われております。義塾のホームページをご覧ください。

2023年の夏は慶應義塾塾員にとって、思い出に残る年になりました。夏の高校野球、例年になく観戦、応援しながら「若き血に燃ゆるもの、光輝みてる我等希望の明星仰ぎて此処に……」と歌っていました。107年ぶりの慶應義塾高等学校野球部優勝という快挙は、厳しいニュースが多い中で、明るい気持ちになる出来事でした。

さて、紅梅会総会は、新型コロナウイルス感染症が発生した2020年度から書面総会を行ってきました。前回のアンケートで書面総会が良いと回答された方が69%という結果から2024年度も書面総会といたします(詳細はp2)。対面の総会は、参加者総数約100名の内、約半数が役・委員で、会員の皆様の参加が少ない状況を踏まえ、総会の在りかたを引き続き検討します。年1回の紅梅会総会は、1年間の紅梅会運営について皆様の承認を得る重要な会です。書面総会資料をお送りした際には、ご回答およびご意見をお寄せください。紅梅会に関する情報収集や発信は、総会資料、1年に1回の会報、HPをご活用ください。

新しいHPをご覧いただけましたか。今回は特に2つのコーナーをご紹介します(詳細はp11参照)。一つは「推薦図書」です。自分で見つけて読む本はジャンルが決まりがちで、新しいジャンルのものを見つけるのはなかなか苦労します。他者からの紹介は、新たな視野を広げます。医療、看護に限らず皆様とシェアしたい図書をご紹介します。もう一つは「受賞者紹介」です。最近、会員の方の活動が所属団体から表彰を受けておられます。その方々を、紅梅会としてご紹介し称えたいと考えました。自己推薦、他者推薦、いずれでも可能です。

みなさまは、「慶應義塾維持会」をご存知ですか。この会は明治34年(1901年)福澤諭吉先生ご逝去のうちに設立された会員のみなさまからのご厚志による基金をもとに、維持会奨学金をはじめ教育・研究の振興、施設の拡充などに寄与する組織です¹⁾。塾員として在学生を支援するという点からご協力ください。

三田評論²⁾11月号では、2023年11月から開設された予防医療センターに関連して「予防医学の未来-人生100年時代のウエルビーイング社会を先導する」が特集されています。超高齢社会となり、人生百年時代を迎える中で、健康管理をする上で最新の情報が得られる大変興味深い記事になっています。前半部分はオンラインでも読むことができますのでご一読くださいませ(三田評論ONLINE(keio.ac.jp))。

それでは皆様、自分にあった健康管理を見つけながら健康寿命を延ばして、健やかな時間を過ごしましょう。

1)慶應義塾 維持会-検索 (bing.com)

2)特集 予防医学の未来 人生百年時代のウエルビーイング社会を先導する、三田評論、11、No1282、p10~28、2023年。

第114号の 主な内容

◆会長挨拶	1	◆同窓生の幅広いご活動	8-9
◆今年度総会報告	2	◆同窓会だより	10
◆2023年連合三田会大会報告	2	◆受賞者紹介	11
◆慶應看護100年記念看護医療学部学生奨学金	3	◆HPリニューアルのお知らせ	11
◆看護医療学部長の挨拶	4	◆2023年度紅梅会役員・委員	12
◆看護部だより	5	◆紅梅会事務局よりお知らせ	12
◆看護医療学部生の活動	6	◆特選塾員募集	12
◆新会員紹介	7	◆訃報	12
◆慶應義塾高等学校野球部優勝!	7		

会報発送者数3,140名(2024年1月31日現在)

2023年度(第80回)紅梅会書面総会報告

2023年度の総会は、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染発生状況を踏まえ、書面総会といたしました。5月10日に2970通の書面総会資料をお送りし、566通の回答をいただきました。2023年度の審議事項については、以下の回答をいただきましたので、ご報告いたします。

1. 審議事項について

審議事項4項目(2022年度収支決算報告・会計監査報告、2023年度事業計画、2023年度事業計画、2023年度新役員)については全て承認されました。

2. 総会開催方法についてのアンケート結果

2020年度より、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大を鑑み、書面総会としてまいりました。今後の総会の開催方法

についてのアンケートを行ったところ、次のような結果でした。

書面総会がよい	363	対面での総会がよい	110	その他
---------	-----	-----------	-----	-----

(オンライン・ハイブリッド16、
どちらでも9、数年ごとに対面8 など)

以上のように、「書面総会がよい」という意見が7割となりました。紅梅会役員としましては、書面総会により多くの方と繋がり、声を聞くことが出来たと感じております。皆様のご意見を踏まえて検討した結果、2024年度の総会は書面総会といたします。しかし、対面を希望するご意見もありますので、総会以外の対面の場を引き続き検討していきたいと考えております。

2024年度 紅梅会総会について

2023年度の総会開催方法のアンケートを踏まえて、2024年度の総会は書面総会といたします。書面総会の資料は5月中旬頃にお送りします。

2023年 慶應連合三田会大会報告

～あらためて、希望の明星仰ぎて此処に～

10月15日、連合三田会大会が日吉キャンパスで開催されました。今年は、リアル開催を主にした大会となりました。

連合三田会大会とは、塾員による文化祭・同窓会のごことで、卒後10年、20年、30年、40年目が実行委員として運営を担います。私は当日救護部会を担当し、医師と共にけが人や急病人の応急手当を行いました。三四会(医学部同窓会)による講演会やイベント「ドクターに挑戦!」もあり、イベントでは多くの子どもたちが本格的な医療の模擬体験を楽しんでいました。

大会をきっかけに、同窓生と久しぶりに再会し、濃密な学生生活を懐かしみながら、多方面で活躍しているそれぞれの「今」を共有する、そんな贅沢な時間を過ごすことができました。そして、世代を超えて出会い、お互いを尊重しながらつながっていく、塾員の絆を感じた1日となりました。



学9期生 松永 愛実



2024年 連合三田会大会について

開催日は、2024年10月20日(日)です。詳細が決まり次第「慶應連合三田会」ホームページに情報が掲載されます。

慶應看護100年記念看護医療学部学生奨学金

学部4年生(2022)

慶應看護100年記念奨学金を頂戴し、活用させていただきました。この度は本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

私は、小児の終末期看護に興味を持っており、家族が自身の子どもの死を受け入れ、前を向いて生活をしていくために、医療者として何ができるかについて学び、探求したいと考え、応募させていただきました。

まず、知見を広げるために、遺族ケアや新生児医療の看護に関する書籍・文献を読みました。また、疾患を持つ子どもと家族が安心して一緒に過ごせる場所を知るために、ファミリーハウスと、「うみとおそらのおうち」へフィールドワークに出かけました。さらに、学びを深めるために、日本小児看護学会第32回学術集会と第27回日本緩和医療学会学術大会に参加しました。

これらの経験を活かし、学部4年次の看護研究では、春学期には「小児のエンドオブライフケアにおける家族に対するケアに関する国内文献レビュー」、秋学期には「NICUにおけるエンド

オブライフケアの家族との関わりに対する看護師の困難の具体とその困難を軽減するための方略」についてまとめました。

慶應看護100年記念奨学金の意義は、学生が心に持つ探究心を内に留めることなく、努力できることにありました。奨学金に背中を押され、私は医療を探究することの面白さを学ぶことができました。そして、小児看護の知見が広がり、家族へのケアの現状について学ぶことができ、私にとって大きな財産となりました。

現在は、慶應義塾大学病院のGCUにて勤務させていただいております。今は健康な母恩を受け持つことが多いですが、患者家族に対し、医療者として何ができるかを日々考え、学びながら看護を実践しております。

この一年で学んだことを活かし、社会に貢献できる看護師になれるよう、これからも日々精進して参ります。

そしてこの先も、慶應看護100年記念奨学金が学生の学びに活用されていくことを切に願っております。

学部3年生(2022)

この度は2022年度慶應看護100年記念奨学金をいただき、本当にありがとうございました。現在は新型コロナウイルス感染症が5類に移行し大学生生活も活気づいてまいりましたが、昨年度はまだコロナ禍であり行動制限が厳しくありました。特に秋学期の5か月間は病院実習前や実習中にアルバイトや課外活動の制限があり、アルバイトで収入を得ることができない日々を過ごしましたので、ご支援いただきましたことは本当に心強いものでした。そのおかげで、安心して学業に集中することができ、成績も高く維持することができております。3年次に志望しておりました海外研修は、海外の大学側から中止が発表され参加することは叶いませんでしたが、その時間を国家公務員試験に挑戦したり、秘書技能検定の受験、オンラインでの米国大学生の交流プログラムへの参加など、看護に限らず幅広い分野の勉強や自身の将来の糧となる知識を得ることへの挑戦をさせていただくことができました。

また、この4月からは保健師コースに進み、現在SFCの方で必修科目の授業と実習をしております。こちらにつきましては授業料とは別の費用がありましたので奨学金を活用させていただきました。大学4年となった今年は、悔いの残らないよう大学生活を楽しむとともに、看護師・保健師の国家試験に合格できるよう、しっかりと勉強してまいります。

慶應看護100年記念奨学金は、経済的な不安なく、学業に励むことができるという心の安心を与えてくださいました。本当に感謝しております。今後は紅梅会の皆さまからのあたたかいご支援にお応えできるよう、世界市民としての広い視野をもって、自身の学びの基礎となる人間の尊厳が守られる社会を作るために何ができるのか、まだまだ深めつけ、いつか自身の学びを医療そして社会に還元できるよう頑張っております。

この度は本当にありがとうございました。

慶應看護100年記念看護医療学部学生奨学金(給付)運用の変更について 会長 茶園 美香(66回生)

2022年度から開始した慶應看護100年記念看護医療学部学生奨学金(詳細は112号の会報)は、これまで紅梅会が書類審査および面接審査を行い、役・委員会で承認し給付対象者を決定していました。その後、慶應義塾に指定寄付(看護医療学部学生に対する奨学金)をし、看護医療学部事務局に運用していただき学部生に給付できることがわかりました。

そこで、2024年度からは、紅梅会が慶應義塾に指定寄付(200,000円/年/2名分)をし、運用(募集、選考など)は、看護医療学部事務で行っていただくことに変更いたしました。今後も授与学生の報告は、会報およびホームページに掲載いたします。

慶應義塾に指定寄付をしたことは、三田評論の寄付金申込者芳名欄に掲載されます。ご確認いただけますと幸いです。

看護医療学部長の挨拶

紅梅会の皆様へご挨拶申し上げます。2023年10月に看護医療学部長を拝命いたしました野末聖香でございます。どうぞよろしくお願いいたします。2001年に開設した看護医療学部の歩みも、早いもので今年23年目となります。学部開設25周年に向け準備を始めようとしているところでございます。紅梅会の皆様には是非ともお力添えいただきたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、看護医療学部の近況についてご報告いたします。新型コロナウイルス感染症が5類となり、少しずつ様々な活動を再開しています。本学部の大きな魅力の一つである海外研修科目も復活し、この8月にはメイヨクリニック研修(科目:臨床看護実践(海外研修))が実施できました。参加した学生たちはたくさんの貴重な経験ができたようです。ただ、大変残念なことに、メイヨクリニックから学部生研修の受け入れ終了の連絡があり、今年が最終年となってしまいました。海外で看護実践に触れる体験は非常に貴重ですので、今後の研修先や研修方法について鋭意検討中でございます。年度末には短期留学受け入れプログラム(科目:国際看護実践I(国内))も実施しました。これまでの参加校である復旦大学(中国)、ウルチ大学(韓国)、サフォーク大学(英国)、ワシントン大学(米国)に加え、今年度から新規にイリノイ大学とピッツバーグ大学(米国)、シンガポール大学の受け入れも開始しました。慶應を含め世界8大学の学生が集うパワフルなプログラムになります(今年度は5大学から留学生が参加)。各国の保健医療システムや看護に関する講義、情報・意見交換を行い、多様な文化を理解し尊重し合う体験をしました。プログラム実施にあたり、多くの紅梅会会員の皆様に



看護医療学部長 野末 聖香

ご協力、ご指導いただいたことに心より御礼申し上げます。

今年度から新たに開始したプログラムとして、学部一研究科5年一貫教育プログラムがあります。これは学部4年次に健康マネジメント研究科看護学専攻の科目の一部を先取り履修し、研究科入学後1年で修士課程を修了するというプログラムです。日本における先駆的な取り組みであり、キャリアプランの選択肢のひとつになる魅力的なプログラムです。

このような様々な教育プログラムを充実させるためには、カリキュラム、シラバス、教育内容や学修方法、教員の教育力など教育に関わる環境整備、質保証が重要です。そのため看護医療学部では来年度日本看護学教育機構による教育評価を受審することにいたしました。現在、学部をあげて準備をしております。分野別評価による教育の質保証は、グローバル化の流れの中で必須です。丁寧に自己点検を行い、本学部の強みをさらに強化し、課題を改善してより質の高い教育研究に取り組みたいと思います。これからも看護医療学部への応援を何卒よろしくお願いいたします。

看護部だより

2023年度の大学病院事業計画は、「継続的な発展」と「新たな医療の展開」をキーワードに、新型コロナウイルス感染症への対応は継続しつつ、今後に向けて特定機能病院としての機能をより高められるように取り組んでおります。看護部の近況をご報告いたします。

1. 2023年4月看護師採用状況

新採用者:139名(うち経験者採用2名)
新卒看護師:137名(看護医療学部卒70名、他校卒67名)
出身校:北海道・東北9名(6.6%)、関東・中部111名(81%)、
近畿・中国・四国5名(3.6%)、九州・沖縄12名(8.8%)

看護部長 87回生 加藤 恵里子



2. 予防医療センターの移転

予防医療センター師長 88回生 藤本 純子

慶應義塾大学病院では開院時より、予防医療を慶應医学の原点とし、その必要性を説くとともに拡充に取り組んでまいりました。2012年から約11年間、予防医療の拠点としてきた3号館3階の予防医療センターは、2023年11月、港区・麻布台ヒルズの中に移転オープンいたしました。ビルの中ではありますが、日本に数台の「立位CT」や映像投影で閉塞感を軽減する「MRIシアター」、短時間の撮像と高精細画像を実現する「AI画像処理技術」など、最新のテクノロジーを取り入れた医療機器と高名な医師、優秀なスタッフをそろえた健診施設となっております。また健康上の問題が発見された際には、信濃町に在った時と同様にスムーズに慶應義塾大学病院の受診・治療につなげる体制も整えております。麻布台ヒルズという最先端の街の中で、これまで大学病院で培った高い診断技術と、医師・看護師・検査技師など専門スキルを持つスタッフが連携し、チームアプローチによる質の高い予防医療を提供してまいります。さらに特徴として、いつまでも健康で充実した豊かな毎日を過ごしたいという願いに応えていくために、一部メンバーシップ制(10年間の会員制)のメディカルサポートを開始いたしました。人間ドックの受診は、自身の健康について考え、医師・看護師と共に健康になるための具体的なアプローチについて一緒に考えることにより、健康をめざすための大切な一歩となります。予防医療センター看護師は、「対話」を軸とした個別的な対応を通して、受診者一人ひとりの健康への動機づけを支援するとともに、安全で快適に検査が受けられるように取り組んでまいります



麻布台ヒルズ前景 中庭部分



5階受付

3. 地域連携強化に向けた取り組み

医療連携推進部主任(退院調整看護師)短1回生 大倉 美紀

当院では、訪問看護や介護保険サービスを利用している患者さんが入院する際に、訪問看護師やケアマネジャーと情報を共有する入院前の連携や、退院前に在宅療養を担う地域のスタッフと行う退院前カンファレンスを積極的に行っています。対面でのカンファレンスはもちろん、視覚的な情報を気軽に共有できるオンラインカンファレンスも大切にしています。また、看護師が退院前後に患者宅に訪問する退院前訪問や退院後訪問も行い始めています。訪問看護師と同行して自宅に訪問すると、情報の共有に加え、より個別性に合わせた計画の変更もできるなど、メリットが大きいと感じています。そして、「病院と地域との連携強化により、患者の“生きる”をともにつくる」ために、看護と介護の意見交換会を年に1回開催しております。2023年度は、11月に「地域と共に行うACP～患者の思いや希望を切れ目なくつなげるために～」をテーマに、対面とオンラインのハイブリットで開催しました。患者さんの「思い」や「生きる」を支えるためには、病院と在宅医療・看護・介護などの地域との連携が重要と考えています。今後も地域連携の強化に取り組んでいきます。

慶應義塾赤倉山荘 www.sanshikai.jp/akakura/index.html

赤倉山荘に泊ってみませんか？

雄大な自然、豊富な湯量を誇る温泉、数多くのスポーツ施設に囲まれた慶應義塾赤倉山荘には、美食・温泉はもちろんのことゴルフ、スキー、テニス、トレッキングなど季節ごとの楽しみ方があります。合宿・研修会はもちろん、ご家族やお友達と赤倉山荘へ。塾関係者のご利用をお待ちしています。

お申し込み・お問い合わせ
赤倉山荘 電話:0255-87-3900 FAX:0255-87-3905 e-mail:ak-ko@hyper.ocn.ne.jp
赤倉山荘管理事務局(三四会内) 電話:03-3359-0227 FAX:03-3358-0664 e-mail:info@sanshikai.jp

看護医療学部生の活動

体育会との両立 少林寺拳法

学部4年生 多家 桜子

私は大学1年次より慶應義塾体育會少林寺拳法部に所属しています。少林寺拳法は日本発祥の護身術です。私は高校生のときに競技を始め、現在は参段の武階を所持しています。今年度は副将・統制として、部の総合目標である「全日本学生大会総合優勝、早慶戦完全優勝」を果たすべく、部を率いてきました。

コロナ禍で、看護学生である私は、実習の感染対策を遵守するために他の部員以上に活動に制限がありました。大会出場が叶わない時期も長くありましたが、限られたチャンスで結果を残すために、休日返上の自主練習や、練習方法の工夫をしながら部活動に励んできました。悔しい経験をたくさんしましたが、今年度は県大会優勝や世界大会出場を果たしました。監督・コーチや部員、そして家族の理解と支えのおかげで、これまで学業と部活動を両立することができたと感じています。

部活動を通じての学びは、相手の価値観を理解しようとす

る姿勢の大切さです。多様な価値観を持つ部員がいるため、意見の対立が度々起こります。それぞれの立場に立って物事を考え、大切にしているものを知り、チームとして同じ目標に向けて努力できるように心がけています。

これは、患者の目標を多職種で共有し、それぞれの専門性を生かして支援していくチーム医療においても非常に重要なことだと考えます。辛いこともあります。将来「あの4年間を過ごせてよかった」と心から思えるように、残りの大学生活を全力で謳歌していきたいです。



研究的視点を持った国際保健看護師を目指して

学部4年生 武居 祐未

私は2023年度より、看護医療学部・健康マネジメント研究科5年一貫教育プログラムの1期生となりました。学部入学時よりアフリカや中東へのスタディツアーやバックパッカー旅行、難民支援活動への参加を通して、社会的決定要因によって健康格差や医療格差が生じている場面を世界の各地域で目にしてきました。看護師として彼らの個別の想いや苦しみに寄り添う臨床的な視点と、科学的手法でその原因と改善策を解明する研究的な視点を両立できる人材になりたいと考え、大学院進学を決めました。このプログラムでは学部4年次に大学院の授業を一部先取り履修し、大学院入学後1年間で修士課程を修了できます。大学院と学部の授業、研究、国家試験対策を並行するのは工夫が必要ではありますが、国際保健看護学分野指導教員の藤屋リカ先生をはじめとする先生方や先輩方にご指導いただき、他専攻の同期とも支え合いながら、充実した学生生活を送っております。

2023年夏は研究のResearch Questionを模索するため、中東とドイツに1ヶ月間滞在しました。渡航にあたっては青田与志子様のご厚志による奨学金制度を利用させていただき、国連機関や難民支援団体の活動を視察し、多くの支援者や研究者にお話を伺いました。コロナ禍を経てオンラインで完結する学習やミーティングの可能性は拡大しておりますが、現地に足を運んだからこそできた経験を生かし、より現場の実情や問題意識を反映させた実学的な研究となるよう努めてまいります。



新会員紹介

笑顔で信頼される看護を

学19期生 中野 彩花

慶應義塾大学を卒業し、4月から慶應義塾大学病院2号館5S病棟で働いています。

消化器内科と神経内科を主とした混合病棟で、疾患や治療の種類も幅広く年代も様々なので、多くの知識とアセスメント力が求められ、大変さとともにやりがいも感じています。慢性的な経過を辿る患者さんが多いので、疾患と向き合いながらもその人らしい生活が送れるよう、日々の関わりの中で、入院中だけでなく退院後の生活も見据えた看護を行うために、先輩方から指導や助言を頂きながら日々精進しています。

まだまだ未熟ですが、患者さんにとってより良い看護とは何かを常に追求し、信頼されるような看護師へと成長していきたいと思っています。



寄り添った支援のできる保健師に

学19期生 辻畑 優希

初めまして。昨年度卒業いたしました、19期生の辻畑優希と申します。

私は現在、杉並区の保健センターで、保健師として働いています。普段は、担当地区の母子や精神疾患・難病のある方のサポートをしたり、乳幼児健診や母親学級の事業をしたりしています。

まだまだ未熟ではありますが、関わっていたお母さんが元気になって、赤ちゃんもすくすくと大きくなっている姿を見ると、関わってよかったなど、とてもやりがいを感じる仕事です。

普段関わる区民の方には、その方の背景やニーズ、考え方に寄り添った支援ができるように心がけていますが、そのように考えられるのは、大学生活での経験が大きく関わっていると感じています。大学では、意識の高い学生も多く、様々なものに取り組む友人の姿に日々刺激を受けていました。自分と違う

視点を持った友人らと関わることができ、広い視点で物事を考える意識が身についたと感じています。今でも、別のフィールドではありますが、頑張っている友人らの話を聞き、日々刺激を受けています。

今後も、区民の方が健康に、そしてその方らしく過ごせるように、日々支援のあり方を模索しながら、精一杯頑張っていきたいと思っています。



慶應義塾高等学校野球部 甲子園優勝!

次は甲子園で直接応援を

紅梅会委員(塾高出身)

第105回全国高等学校野球選手権記念大会において、慶應義塾高等学校野球部が見事優勝されました。優勝おめでとうございます。

107年ぶりの母校の甲子園での優勝ということで、当日は決勝戦試合開始前から優勝決定後まで、塾高出身者とのLINEグループではメッセージが飛び交い止まりませんでした。私は野球部出身ということではありませんが、自分のことのようにとても嬉しかったです。今回、私は塾高の甲子園でのほとんどの試合をテレビで観戦することができました。療養中に出かけることのできない母と父と一緒に、たまたま実家で塾高の最初の試合を見始めたのがきっかけです。両親とは私が小さい頃から、家族皆でスポーツの試合をよく見ていました。二試合目以降も、せっかくならと私も仕事の休みを調整して

実家で観戦し、ある日は母の受診先の外来でスマホ片手に一緒に試合を見ました。優勝が決まった瞬間、両親もとても喜んでくれ、この夏の良い思い出を一緒に作ることができました。

慶應義塾高等学校野球部の皆さん、改めて優勝おめでとうございます。ぜひ今後のご活躍も期待しています。



NFN Nurse for Nurse
Connect and Discover

分野・世代を超えて、
看護職のキャリアを一緒に考えませんか?

会員登録受付中

一般社団法人Nurse for Nurse (2021年9月設立)
メンバー：門元記子・二田水彩・川添高志 (看護医療学部1期)

2024年度 紅梅会委員会のメンバーを募集しています!

塾外で活動されている方も含めて、多彩なメンバーで、紅梅会を盛り上げていきたいと考えております。休職中の方や遠方にお住まいの方もメールやLINEなどで連携を取り、活動していただいています。

お気軽に紅梅会事務局までメールでお問い合わせください。

koubaikai.1934@gmail.com



同窓生の幅広いご活動

特定行為看護師として

厚生女子学院を卒業し、慶應義塾大学病院で配属された小児内科病棟から消化器外科病棟へ異動後、専門看護師の草分けであるETナースの資格を持っていたのが直属の師長でした。管理難渋な創傷やストーマを、直接指導を受けながらケアした経験から、日本看護協会認定看護師教育課程へ進みました。1997年、第1期生の皮膚・排泄ケア(WOC)認定看護師となり、以降、病棟や外来の患者さんの処置を行ってきました。ETナースというロールモデルがいましたが、エキスパートとして医師の信頼を得て、ディスカッション出来るような現在の関係性を築くことができたのは、同僚たちが一緒に戦い、支えてくれたことが大きく影響しており感謝しています。当院でも特定行為看護師の育成を開始するにあたり、25年間のWOCとしての経験や医師との関係性から、最初の候補

84回生 野崎 祥子

としてお声掛けいただきました。2022年特定行為研修を修了し、看護部や先生方のご協力をいただきながら、活動していくためのシステムを作り、創傷関連の特定行為看護師として、院内で活動を開始しました。まだまだ、活動範囲は狭く、特定行為看護師に関する院内周知も不十分ですが、最近はこのユニフォームに関して、他の職種の方からも、質問されることも増え、情報も広がっているのではないかと思います。定年もみえてきたこの頃ですが、残された期間、後進の特定看護師、特定認定看護師が活動しやすい環境を作っていけるよう、頑張っていこうと思います。



看護企画情報管理室より ~看護の視点を活かして~

学6期生 杉原 弘容

私は慶應義塾大学病院にて病棟看護師として7年間勤務後に病院情報システム部(看護部兼務)の経験を経て、看護部長室の看護企画情報管理室として勤務しています。

看護企画情報管理室は2021年に新設となった看護部長室内の機能であり、経営情報担当師長と看護スタッフ2名で構成されています。スタッフ2名は病院情報システム部を兼務しており、業務内容は診療情報の利活用をはじめ、コロナ禍で急拡大した電子機器・サービスの運用周知、個人情報やセキュリティ対策に関することなどを担当しています。病院情報システムとの兼務により電子カルテを活用した業務支援ツ

ル制作や年単位かつ全患者にわたる情報の可視化も行え、介入評価や業務改善へ繋がる情報取得などをスピーディに行える体制が構築されています。

病棟経験や院内研修で培われた看護の「人を捉える」というスキルはシステムを業務対象としても重要と感じています。システムを利用する医療者・患者さんとの関わりは勿論、システムを企画・デザインした人の意図を考察すれば適切な使い方や、それ以上の使い方も見えてきます。統計などのデータもそのデータを使う人のことを考え、出し方や見せ方を工夫することでデータに血が通う事に面白みを感じています。

誰でも行けるいちご狩り農園

学3期生 市村 渉

私は看護医療学部を卒業後、慶應義塾大学病院に就職しました。一般消化器外科病棟で勤務をする中、職場で現在の妻と出会い、結婚を機に退職し妻の出身地である宮崎県へ、いちご農家を継ぐ為に移住しました。もう10年前のことです。

言葉通り全くの畑違いの場所で最初は苦労しましたが、一から農業を勉強し、満足できるいちごが作れるようになった頃、COVID19が流行しました。ニュースやSNSで医療現場が混乱している様子を知り、何も出来ない自分を歯がゆく思いました。

3年前に急遽私の出身地の神奈川県に帰ることとなり、看護師に戻ることも考えましたが、人口の多い地域でいちご狩り農園をしようと決意し、準備をしました。その間、地域の多機能型拠点施設で勤務していた際、医療的ケア児たちの外出先は数える程しかないことを実感し、障がいのある人たちに

も気軽に来てもらえる場所として2022年、バリアフリーのいちご園「イチゴス横浜」を開園しました。吊り下げ可動式の栽培棚で通路を広くし、車椅子、ベビーカー、バギー、大型のストレッチャーでも利用可能です。

学生時代や実習、病棟、現場で学んだことが今になって多くの方の役に立てていると、嬉しく思っております。



「イチゴス横浜」
ホームページ



誰一人取り残さない健康な世界の実現を目指して

学15期生 稲垣 日菜子

私は、看護医療学部を卒業してから外務省国際協力局国際保健政策室にて勤務し、英国ロンドン大学大学院にて国際保健・開発学修士課程を修了後、UNICEFマラウイ事務所母子保健ユニットでのインターンを経て、現在、国際協力機構(JICA)人間開発部保健グループにて勤務しています。JICAでは、主にアフリカ・中東・中南米地域の低中所得国における保健分野の二国間協力事業の計画立案・実施管理に携わっており、直近では東アフリカに位置する小さな内陸国であるブルンジ及びブルワンダに渡航し、新規プロジェクトの立ち上げに従事しています。世界最貧国のうちの1つでもあるブルンジでは、保健システムが脆弱であり、特に母子保健分野における課題が大きいと、同国の妊産婦及び新生児の健

康改善を目指し、緊急産科・新生児ケアにおける研修を通じた能力強化及び母子手帳を活用した活動を組み合わせた取組を実施しています。保健省をはじめとする相手国政府との協議を通じて、限られたリソースで先方のニーズに合ったプロジェクトを形成し、実際に成果を出すことは容易ではありませんが、他の開発パートナーとも連携しつつ、真摯に現場に寄り添いながら、カウンターパートとともに目標に向けて丁寧に並走することの大切さを日々感じています。まだまだ学ぶことの多い毎日ですが、低中所得国に暮らす人々の健康に微力ながらも貢献できるよう、これからも尽力して参りたいと存じます。

保健師、市役所に潜入

学4期生 小林 紀子

令和5年4月より保健師資格により都内の市役所の窓口支援員として働き始めました。

自治体としては新しい試みのため採用面接時に「保健所ではなく市役所の仕事なんだけどイメージがわきますか?」と言われたことが今思うとユニークに感じます。

福祉全般(保育、子ども、保健、障害、高齢)のサービス申請を一身に受ける中、自分は看護の多様性と称して一般事務職員になったのかと最初は思ったものの、ある日自分の接遇は看護師っぽいと気づきました。

例えば看護の知識と経験のおかげで精神障害の方の窓口支援は興奮させず自立できている部分に対して支援することができました。

また、病気の症状の辛さや家族背景を理解して苦勞を労いながらサービスの手続きを手伝うと、涙を浮かべて「こんなに窓口で優しく対応してもらえるなんて安心しました」と感謝されることもありました。

社会の福祉ニーズが広がっていく中で新しいサービスが生まれ、そこに看護や保健を用いてみようと思って頂けることは、看護だけに目を向けてきた私にとって可能性はいくらでもあるのだと衝撃になりました。看護が介入したことで「あそこの自治体の窓口の接遇がすごくよかったわ!」なんて言われたら看護師冥利に尽きると思う今日この頃です。

編集者として看護の知識を提供

学4期生 山崎 糸子

皆さんは患者教育の際に苦労されたご経験はありませんか?私は外来看護や訪問看護を経験し、限られた時間で疾患説明や治療指導、生活上の注意点を説明する難しさに直面してきました。そんな折、「患者さんにとってもっとわかりやすい医療情報を」との思いから、病気がみえるやレビューブックなどで知られる「メディックメディア」で看護コンテンツの編集に携わるようになりました。

看護と編集は異なる職種ですが、共通点があると感じています。看護で患者中心のケアを心がけるように、編集でもユーザーのニーズに耳を傾け、それをコンテンツに反映させるのです。例えば、現在公開している YouTube「アセス

メントの考え方・書き方」は、「アセスメントが苦手」という漠然としたニーズではなく、コロナ禍において「実際の記録を見たい」という具体的なニーズを捉えて対応したことにより、多くの人に利用してもらえる動画になりました。

勿論、編集として文章力や表現力など未熟な点は多いため、これからも精進し、皆さんのお役に立てるコンテンツを制作できるよう努めてまいります。



同窓会だより

「同窓会inくまもと」クラス会

68回生 小路 玉代

令和5年9月25日、地震災害復興中の熊本において、2泊3日の第23回クラス会を開催しました。東京周辺・群馬・鹿児島から15名の参加で、前回の秋田開催後、コロナ禍となり5年ぶりの開催となりました。

初日、熊本城が目前に見える「KKRホテル熊本」での久しぶりの再会は、一足飛びに学生時代に帰り、話が弾みました。毎回参加の三浦英子先生の足腰の強さと姿勢の良さに、自分達も「こうありがたい」と目標をもらいました。

宴会での近況報告では、仕事を続けている人、趣味の洋裁や野菜作り、ウォーキング等の健康づくり、家族の介護等と忙しい日常にも、楽しみを見つけ、年齢を豊かに重ねており、お互いに元気を貰いました。

2日目は、熊本地震で傷つき修復工事が進められている熊本城(完全修復まで30年)の見学。遠回りの順路となり、足腰が鍛えられました。

後泊を計画し、希望者10名が、南小国町の黒川温泉に足を延ばしました。途中、阿蘇の大パノラマが見渡せる大観峰で休憩し、世界一のカルデラの雄大さを満喫しました。黒川温泉は、日本でも有数の温泉地です。奥深い山里の庵を思わせる旅館、しっとりとした温泉の湯の温かさ、多彩な料理等のもてなしは、日常を忘れりフレッシュできました。

3日目は、阿蘇の草千里で過ごし、阿蘇火口見学は、朝霧のため諦めていたところに突然霧が晴れ奇跡的に見学ができ、68回生の運の強さを感じました。

次回は3年後に「神奈川で元気に再会しよう!」と、誓いあって別れました。



熊本同窓会

卒業後も続く増田先生との絆

学1期生 高橋 孝治

私は学生時代に増田真也先生(慶應義塾大学看護医療学部教授)のプロジェクトに所属していました。私が在学していた際のプロジェクトは、いわゆる卒業論文を書くための活動に近いものでした。増田先生は当時から学生に気さくに接してくだり、プロジェクトのメンバーと食事をする機会があれば必ず同席してくださいました。

この食事会は、1期生が卒業した後も続くことになりました。少なくとも年に1回以上は増田先生を慕うOG、OBが先生をお誘いして信濃町キャンパスの近くや、時にはSFCの近くに集まって学部時代さながらワイワイと食事をしてきました。1期生が卒業して数年は卒業生が現場で感じるつらい気持ちを先生に聞いていただいたり、同期の活躍をシェアする

とが多かったのですが、回を重ねるごとに家事・育児と仕事を両立しているメンバーや看護師や保健師の経験を活かしてセカンドキャリアに進むメンバーが増え、先生に現況報告をしたり互いの経験を共有する場になっています。また、参加するメンバーも1期生から14期生まで参加するようになり、世代間交流の場にもなっています。同期生との横のつながりだけでなく、他の学年の皆さんと交流できる非常に貴重な機会になっていると感じています。

これは多くの学生から慕われる増田先生がいらしたからこそできたつながりです。食事会から半年くらい経つと、自然と次回の食事会の企画が話題に出ます。これからも増田先生に感謝しつつ、この食事会を続けていきたいと思っています。

受賞者紹介

近藤(滝沢)咲子 様 (74回生)

【受賞した賞】 造血細胞移植功労賞

【賞を出した団体】 日本造血・免疫細胞療法学会

【授賞理由】 移植看護の発展に貢献

造血細胞移植看護ネットワークの創設の中心的メンバー、移植患者の療養生活のQOL向上に努める、医師と連携をとった移植後のフォローアップ体制の構築、患者会の支援、移植看護に対する知識・技術の向上などへの貢献

【受賞日】 2023年2月12日

【受賞者の声】

1994年には造血細胞移植ユニットが開設され、その後25年以上の間、血液疾患の患者さんと治療に携わる医療従事者

と歩む日々でした。移植の成否とともに、この治療を受ける患者さんのQOLをあげるために、医療者のできることを他施設のメンバーと模索し実現していった、とても楽しい日々でした。



授賞式に学会理事長(北海道大学 豊嶋崇徳先生)と

梁井 史子 様 (87回生)

【受賞した賞】 みんなの訪問看護アワード2023「つたえたい訪問看護の話」審査員特別賞

【受賞作品】 「そうだ、訪看がある」

【賞を出した団体】 NsPace(帝人株式会社)

【受賞日】 2023年3月24日

【受賞者の声】

乳がん再発転移で抗がん剤治療のために訪問看護を仕事する私が10か月間の休職期間の時の経験をエッセイで応募した結果、入賞させていただきました。漫画化されましたし、トークセッションにも参加しています。多くの方にお読みいただきたいと思います。



【受賞作品の漫画】

受賞作品漫画

「そうだ、訪看がある<前編、後編>」

【つたえたい訪問看護の話】

-NsPace(ナースペース)- 家で「見る」あなたを支える(ns-pace.com)より



HPリニューアルのお知らせ

学17期生 島田 宗太郎

本年度より紅梅会ホームページがより使いやすく、交流の場としての機能を促進することを目指しリニューアルされました。今後、本ホームページを通して紅梅会の皆様にぜひ交流を深めていただけるよう、HP 委員一同尽力してまいります。そんな願いを込め、この度、新しいホームページの旗揚げに伴い「わたしの推薦図書」、「受賞者紹介」、「情報交換」の3つのコーナーを新しく立ち上げさせていただきました。これらはそれぞれ、おすすめの書籍紹介や、学会賞など素晴らしい功績を表彰された方の紹介、勉強会やイベントのご紹介などを行うことができる情報交換ページとなっております。これまで活動を続けてきた、卒業生のインタビュー

も含めて、紅梅会の皆様の素晴らしい活動をもっと広め、活発な連携を進めていけるような記事作りを進めてまいりますので、何卒自薦他薦問わず、多くの皆様のご参加、ご訪問をお待ちしております。

<https://keio-koubaikai.net/>

